

みずほCustomer Desk Report 2020/04/30号(As of 2020/04/29)

市場営業部 為替営業第二チーム

【昨日の市況概要】

	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY	公示仲値	-
				GBP/USD	AUD/USD
TKY 9:00AM	106.77	1.0832	115.59	1.2439	0.6502
SYD-NY High	106.89	1.0886	116.07	1.2485	0.6558
SYD-NY Low	106.36	1.0818	115.45	1.2391	0.6486
NY 5:00 PM	106.65	1.0880	115.96	1.2469	0.6557
NY DOW	24,633.86	532.31	日本2年債	-	-
NASDAQ	8,914.71	306.98	日本10年債	-	-
S&P	2,939.51	76.12	米国2年債	0.2033	▲1.08bp
日経平均	-	-	米国5年債	0.3663	▲0.95bp
TOPIX	-	-	米国10年債	0.6277	1.24bp
シカゴ日経先物	20,455.00	430.00	独10年債	-0.4965	▲2.45bp
ロンドンFT	6,115.25	156.75	英10年債	0.2830	▲0.10bp
DAX	11,107.74	312.11	豪10年債	0.9330	▲0.10bp
ハンセン指数	24,643.59	67.63	USDJPY 1M Vol	7.43	▲0.35%
上海総合	2,822.44	12.42	USDJPY 3M Vol	8.03	▲0.26%
NY金	1,713.40	▲8.80	USDJPY 6M Vol	8.20	▲0.23%
WTI	15.06	2.72	USDJPY 1M 25RR	-1.60	Yen Call Over
CRB指数	111.87	3.66	EURJPY 3M Vol	9.24	▲0.50%
ドルインデックス	99.57	▲0.30	EURJPY 6M Vol	9.51	▲0.64%

【昨日の指標等】

Date	Time	Event	結果	予想	
4月29日	18:00	欧	消費者信頼感・確報	4月 -22.7	-
	21:30	米	GDP(年率/前期比)	1Q -4.8%	-4.0%
	21:30	米	個人消費	1Q -7.6%	-3.6%
4月30日	21:30	米	コアPCE(前期比)	1Q 1.8%	1.7%
	03:00	米	FOMC政策金利	-	0%-0.25%

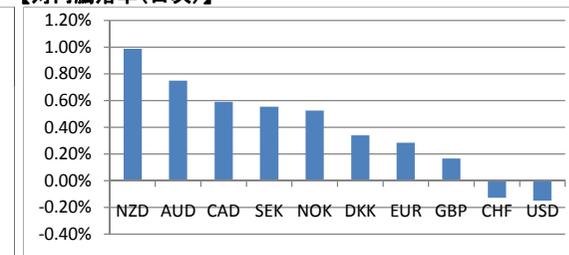
Date	Time	Event	予想	前回	
4月30日	10:00	中	製造業PMI/非製造業PMI	4月 51/52.5	52/52.3
	18:00	欧	GDP(前年比)	1Q -3.4%	1.0%
4月	18:00	欧	CPI(前月比/前年比)・速報	4月 0.1%/0.1%	0.5%/0.7%
	20:45	欧	ECB主要政策金利	-	0.0%
20:45	20:45	欧	ECB預金フットリ・レート	-	-0.5%
	21:30	米	PCEフレック(前月比/前年比)	3月 -0.3%/1.3%	0.1%/1.8%
21:30	21:30	米	新規失業保険申請件数	-	3500K
					4427K

東京	アジア時間を106.77レベルでオープンしたドル円は、前日海外時間からのドル売りの流れを引き継ぎ一時106.51まで下落。もっとも、その後は新規材料に乏しく106.55レベルでもみ合いの展開。東京休日により薄商いの中、方向感なく推移し106.57レベルにて海外時間に渡った。(香港時間14:30)
ロンドン	ロンドン市場のドル円は、106.57レベルでオープン。目新しい材料に欠けるなか、狭いレンジで横ばい推移し、106.48レベルでNYに渡った。ポンドドルは、1.2464レベルでオープンし、ポンド売りが先行した。正午に1.24台を下回り1.2391まで下値を切り下げ、1.2395レベルでNYに渡った。(ロンドン・トルジャー 00531 444 179 マルビル)
ニューヨーク	海外時間のドル円は106.48レベルでNYオープン。朝方は米1-3月期GDP速報値の発表直後はドル買いで反応し、106.78をつけるが、指標結果は予想を大幅に下回り、個人消費も大幅に減少したことが伝わる中、滞空時間は短く、106.55まで売り戻される。その後、9月平均が600ドル超の上昇を見せ、クロス円が上昇するも、同時にリスクオフのドル買いも巻き戻され、ドル円は106円台半ばの狭いレンジでもみ合う。午後のFOMCでは米政策金利の据え置きとなった一方、声明文では「新型コロナウイルスの影響は中期的に大きくなり」と述べ、その後のハウエルFRB議長の記事会見で「追加措置が必要なる可能性が高い」との発言が伝わり、予想以上にハ派姿勢が強調されたとの見方にドル売り圧力が強まる。しかし、米株の堅調推移に上昇するクロス円にサポートされたことから、ドル円の下値は限定的で、106.60近辺での方向感の無い推移となり、結局、106.65レベルでクロス。一方、海外時間のユーロドルは、1.0843レベルでNYオープン。米企業的好決算や、米製薬会社の抗ウイルス薬が臨床試験で主要評価項目を満たしたとの報道を背景に米株が急伸する中、朝方はユーロ円の上昇につれ高となり、1.0868まで上昇。買い一巡後、1.0840まで反落するが、予想以上にハ派色なFOMCにドル売りが強まり、1.0886まで高値を更新。終盤は1.0880近辺で小動きとなり、そのまま1.0880レベルでクロス。

【ドル円相場】



【対円騰落率(日次)】



【マーケット・インプレッション】 危機を克服しつつある台湾と韓国で気になること

東京での感染者数の増加ペースは峠を越えたように見受けられるものの、本邦でのCOVID-19の感染拡大は依然として予断を許さない状況が続く。5月6日迄とされていた緊急事態宣言も一ヶ月程度の延長が決定的と報道される。本格的な経済活動の回復には時間がかかりそうな本邦を尻目に、近隣の台湾、韓国は早々に感染拡大に歯止めをかけ、着実に通常モードへと移行しつつある。早々に正常化を果たした両地域には、日米など当面の経済停滞が見込まれる地域を上回るスピードで資金回帰が進んでおり、各々を代表する株式指数である、加権指数、KOSPI共に3月の急落前の水準を回復する勢いを見せている。対ドルでの為替スポットの水準感も、一時のパニック的なドル買いをこなした後は、非常に落ち着いた動きを見せているところも共通している。尤も、為替という観点でできるのは、両地域ともスポットではなく、フォワードやスワップと呼ばれる市場である。台湾ドル、韓国ウォン共に規制通貨となっており、基本的にオフショアでの取引は認められず、域外ではNDFと呼ばれる差額決済型の予約が主要な取引となっているのだが、このNDFの市場が異様な状況となっている。一般的に、為替のフォワードポイントは二国間の「金利差」と「需給」によって決定されるとされるが、両通貨とも後者の「需給」のバランスが崩れていることにより、異様なまでに予約のレートが自国通貨高方向に傾いてしまっている状況が続いている。両通貨の「需給」のバランスが崩れている背景は各々違い、台湾ドルは現地機関投資家による外貨売りヘッジニーズが、韓国ウォンは地場金融機関のドル調達需要が背景にあるものと想定される。韓国ウォンについては、徐々に落ち着きを取り戻してきているものの、台湾ドルの状況は当面続きそうとの見方が強い。両通貨建資産による為替リスクを抱えているような場合には、この機にヘッジの導入を検討してみても良いかもしれない。(伊藤貴)

■今週のドル/円 見直し

田中	竹内	筒井	加藤	関	光石	山岸	田坂	尾身	上野
ペア	ペア	ブル	ペア	ペア	ブル	ペア	ペア	ブル	ペア
岡本	小野崎	玉井	原田	大庭	高村	松本	逸見	大谷	谷舗
ブル	ブル	ペア	ペア	ブル	ペア	ペア	ペア	ペア	ペア

ブル	ペア
6	14

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報提供を無償のみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。